

# 有限責任中間法人東大LB会 設立趣旨書

## 1 趣旨

東京大学ア式蹴球部(以下、東大ア式蹴球部)は、大正年間に創立され、日本サッカーの草創期に大きな役割を果たしてきた。そのOB組織である東大LB会は、昭和10年代、20年代には全日本蹴球大会優勝も果たし、昭和30年代には御殿下サッカークラブとして社会人リーグで活躍した。また御殿下少年サッカー教室を主催して東京大学周辺地域の住民との交流を始めている。任意団体東大LB会は会員総数700名以上を数え、その活動は東大ア式蹴球部の育成・強化・指導を中心に、OBチームの運営、少年サッカー教室の運営などに及んでいる。

近年、東大ア式蹴球部ならびにそのOB組織である東大LB会を取り巻く環境に変化がみられ、東大LB会には一段の発展の機会とともに組織の長期的存続が危ぶまれる事象も明らかになっている。

### 【発展の機会】

- 東京大学が国立大学法人化したことにより運動部、OBに対する期待が高まっている。
- 任意団体がNPO法人などの法人格をもって社会的認知を受け、活動を拡大する傾向がある。
- グラウンド、運動施設の管理運営を委託する環境になりつつある。人口芝化された御殿下グラウンドの需要は高い。
- 日本サッカー草創期の歴史を保存継承して欲しいというサッカー界の要望がある。
- 眠っている基金の活用機会が到来している。

### 【問題点】

- 学内外の運動部、スポーツ組織との競争においてグラウンド使用、部室使用など長年の既得権益を侵食される恐れがある。
- LB会会費の会費納入率が低下しつつあり、昭和51年卒以降は「納入者数 < 未納入者数」の傾向がはっきりしている。
- 基金活用のためには、法人として資金管理する体制が必要である。

このような状況の下、東大LB会は長い栄光の伝統と幅広い活動の実績を基盤にした社会貢献を目的とする組織に改組することを目指す。すなわち、さらに広く市民とともにサッカーの振興をはかることにより、青少年の健全発達、壮年および熟年層の健康維持増進を企画し、また地域のコミュニケーションの場を通じて優良なコミュニティを形成し、さらにサッカーのもつ国際性から海外との交流を推進する等、今後の市民の目指す方向性を考慮にいれつつ、市民の活動に積極的に協力することにより公益の増進に寄与することを目的とする法人に発展的改組する。

## 2 申請に至るまでの経過

2005年1月東大ア式蹴球部部室2階で開かれたLB会幹事会で、前年度決算の説明があり、会費納入率が低下しつつあり、昭和51年卒以降は「納入者数 < 未納入者数」の傾向がはっきりしていることが報告された。そして古くから引き継がれてきた基本会計800万円余の口座管理を法人名にして欲しいとの声もあった。2005年5月本郷で幹事会をひらき、東大基金130億円寄付募集について議論をした。ここでLB会の財政基盤を固めるのが先決であると発言があり、包括的に課題解決するために、NPO法人化を検討する方向が出された。2005年8月はじめの東京大学 京都大学定期戦において、東大LB会のNPO化を検討する件でアンケートをとり、大方の賛成を得られたので、2005年9月から3度にわたり東大LB会NPO化検討委員会を開催し、2005年11月東大LB会幹事会にNPO法人化を提案した。法人化推進の議決を得た後、所轄官庁(東京都、内閣府)との折衝の結果、有限責任中間法人がふさわしい法人形態であると結論に達した。2005年12月18日東大LB会総会での決議を受け、2006年1月中間法人東大LB会の設立総会を開催することになった。